

# 宮崎県立看護大学大学院看護学研究科 令和元年度修士論文要旨

## 看護師のリフレクションを支援する 事例検討会における師長の学びの特徴

日高仙子（基礎看護学）

【キーワード】 看護師のリフレクション 事例検討会 リフレクションの支援 師長の学び

本研究の目的は、看護師のリフレクションを支援するために管理者研修として開催する師長の事例検討会（以下検討会とする）における学びの特徴を明らかにすることである。

研究対象は、研究者が所属するA病院の検討会に参加し、研究協力の同意が得られた師長14名である。

研究方法は、看護師のリフレクションを支援するための方向性を検討する〔前検討会〕と、リフレクションを支援した師長がその内容を報告し、支援の在り方等を評価・検討する〔後検討会〕の内容をICレコーダーに録音し逐語録を作成しデータとした。

7回開催したすべての検討会終了後に師長が提出した「検討会での気づき」の記述内容の特徴を明らかにした上で、これらの「気づき」に影響を与え、看護師のリフレクションに深まりが確認できた2つの検討会を分析対象として選択した。

逐語録を元に、リフレクションを支援するという観点から、師長らが＜着目した事実＞と＜師長の発言＞のキーセンテンスを選択し、〔前検討会〕においては、師長らの認識の特徴および支援の方向性を抽出した。〔後検討会〕においては、師長らの認識の特徴およびリフレクションの評価・今後の支援の方向性を抽出した。

さらに、師長らの認識の特徴の共通性を検討し、検討会における師長の学びの特徴として、以下の内容が明らかとなった。

検討会において、師長らは【患者の全体像を描こう】と問いかけながら、【看護師の対象への思いに関心】を寄せ、【どのような看護実践がなされたのか】と患者のおかれた状況やそのプロセスを描こうと討議を進めた。そして【当事者が自己の看護過程に沿って想起し語れるよう問いかけ、その関わりの中から患者にどのような変化があったのか、自身の看護実践の意味が見い出せるように支援するという方向性】を定めた。さらに【当事者だけでなくチームとして患者の捉え方が不十分であったことを師長や参加者が気付いた】ことや、【リフレクションを深めるためには対象の変化の事実を押さえ、関わりの意味を当事者が認識できるように問いかけること】を通して、【看護実践の状況とその意味】が浮き彫りになると、【当事者やチームの成長】のための【今後の課題】を見いだしていた。